

生まれ変わった  
TOEIC Bridge® Tests  
4技能化+フィードバック充実

TOEIC Bridge® Testは、「英語で聞く・読む能力」を測定してきた。今年6月の公開テストから、「英語で話す・書く」テストが加わり、英語4技能をトータルで測定する「TOEIC Bridge® Tests」となった。

TOEIC Bridge® Testsのポイントは、フィードバックが充実したこと。「スコア」とスコアに基づいた「レベル別評価」の他、新たにTOEIC Bridge® L&Rでは項目別（応答・会話など）の正答率が示される。一般的なレベルだけでなく、自分の理解度や弱点が明確になり、今後の学習の方向性を決める際の参考にして効率的な英語学習につなげることができる。

「話す・書く、というアウトプットが苦手なのは、日本人だけではありません。それは言語習得の最終段階で、最も難しい技能です。初中級者であればこそ、TOEIC Bridge® Testsを活用して、技能習得のモチベーションアップに役立ててほしいと思います」（パンチャス統括責任者）

テスト形式と構成

TOEIC Bridge® Listening & Reading Tests  
(TOEIC Bridge® L&R)

マークシートによる一斉客観テスト

Listening 50問/約25分間 + Reading 50問/35分間

TOEIC Bridge® Speaking & Writing Tests  
(TOEIC Bridge® S&W)

テスト会場にてパソコンを使用して実施

Speaking 8問/約15分間 + Writing 9問/約37分間

TOEIC Bridge® Tests  
はじめて受験応援企画

TOEIC Bridge® L&RまたはTOEIC Bridge® S&Wをはじめて受験する人全員に500円分のAmazonギフト券をプレゼント（両方受験する人は1000円分）。応募の際は、下記の応募専用コードが必要。

【応募専用コード】 B201906di

Amazonギフト券  
プレゼント

詳細はこちら



問い合わせ先  
一般財団法人  
国際ビジネスコミュニケーション協会  
https://www.iibc-global.org  
☎ 03-5521-5012



ミャンマーの鉄道施設近代化プロジェクトでの技術支援を実施（JR東日本グループ）

の企業・団体で採用されている。TOEIC Bridge® Testを実施しているのは今のところ40カ国だが、中東のアラブ首長国連邦では、20年のドバイ国際博覧会をにらんで、同国道路交通庁がタクシーの運転手にTOEIC

Bridge® Testの受験を促進した結果、著しい効果があったという。また南米では、チリの職業訓練大学でスコアが卒業要件として使われ、ブラジルの高校ではクラス分けや英語学習の進捗を測定するために採用されている。日本では、17年度にTOEIC Bridge® Testの受験者数が増加した。訪日外国人の急増やインバウンド産業の隆盛で、英語コミュニケーション能力への需要が高まったためである。

TOEIC® Programの開発  
機関ETS (Educational Testing Service) のシェリー・パンチャス統括責任者は、「TOEIC Bridge® Testは、英

語の運用能力を測るテストです。コミュニケーションが必要となる基本的な英文法や単語はもちろん出題されますが、設問の多くはいかに実際の場面でのコミュニケーションが取れるかを評価するために設計されています」と語る。

**SNS時代の  
聞く・読む・話す・書く**

パンチャス統括責任者は、「近年、英語を始めたばかりの初中級者レベルであっても、英語で発信する場面が増えているため、TOEIC Bridge® Testでも話す・書くを含めた、英語4技能を測定してほしい、という声が多くありました。そこで、こ

れまでの公平・公正さを維持しつつ、日常会話はもちろん、メールやSNS、ビデオ通話をはじめ、複数人での会話や、図表や写真を使ったやりとりなど、より実際の場面に即した英語能力を4技能で測定できるTOEIC Bridge® Testsを開発しました」と説明する。

東電所の石井次長は「4技能が測れるようになれば、より実践的な英語力を身に付けられるのではないかと期待しています」とほほ笑んだ。



昨年からはじめた「エキナカ留学」の取り組み。成田空港行きの特急列車が発着するホームで、外国人を英語で案内する（JR東日本 東電所）

JR東日本が国際事業展開に活用する  
英語習得“やる気”アップの秘策

今年の6月より、英語学習の初中級者を対象とした「聞く・読む能力」を測定する「TOEIC Bridge® Test」が、話す・書く・テストが追加され、トータルで4技能（聞く・読む・話す・書く）を測定できる「TOEIC Bridge® Tests」に生まれ変わった。基礎的な英語「コミュニケーション能力を身に付ける手段として、グローバル展開を目指す企業からの期待も大きい。」

今

東日本旅客鉄道（以下、JR東日本）は、人口減少やグローバル化などの経営環境の変化に対応するため、「世界を舞台に」をテーマに、持続可能な国際事業の経営に乗り出している。そのような中、JR東

語学力向上に取り組み  
意欲を高める

「JR東日本のTOEIC® Listening & Reading Test（以下、TOEIC® L&R）の受験を勧めてきましたが、社員からは『非常に難しい』『リスニングが聞き取れない』『2時間テストに集中して、とても疲れた』などの声が多く上がっていました。そこで、2017年度からTOEIC Bridge® Testを導入。TOEIC® L&Rよりも試験時間が短く、初中級者向けのテストであるため、社員の負担が少

なくなり、2017年度からTOEIC Bridge® TestとTOEIC® Speaking & Writing Testsを効果的に活用。各テスト受験後には、オンライン英会話やeラーニングで学習し、再度テストを受けて上達具合を確認する「学習」と「評価」のサイクルが確立しつつあるという。

また、技術者は、通常の業務において英語で会話することがほとんどないため、英語になじめるよう、駅のホームで外国人

を案内する実地研修「エキナカ留学」を行っている。「海外の現場では、技術英語さえできればいいという考え方がありますが、アジアでも共通言語となる英語でコミュニケーションが取れることは、事業をスムーズに行う上で、とても大切になります。現在の課題は、英語学習のモチベーションをいかに持続させるかです」

世界40カ国で実施  
国内でも受験者数増

TOEIC® Programは現在、世界160カ国、1万4000

JR東日本東京電気システム開発工事事務所の石井巧次長とETSのシェリー・パンチャス統括責任者

